



秋厚労ニュース

NO1738号

2017年2月2日
秋田県厚生連労働組合
秋田市山王5-4-2
TEL 018(864)3341
FAX 018(864)3349

異変はボーナスから始まる

今年度のボーナス要求は5ヶ月。夏2ヶ月・年末2ヶ月を経て、今は年度末ボーナスが論点。また、来年度のボーナス要求は、4月1日の中央委員会で話し合います。注目すべき点は、栃木・埼玉など「厚生連の異変」はボーナス削減から始まっていることです。

栃木・埼玉を教訓に

秋厚労

来年度のボーナスについて話し合う中央委員会

4月1日 (土)

15:00~17:00

於；秋厚労会館

業者が悪魔の囁き

同じようなことは埼玉県厚生連でも起きていて、残念ながら2016年に解散しました。また、茨城県厚生連の経営者が提案している内容も「退職金・ボーナス・土曜診療」の3点セット。3県とも経営手法がよ

業者が悪魔の囁き

全厚労関信ブロック専従・岡部義秀氏が作成した資料によると、栃木県厚生連の場合、1997年からボーナスを下げ始めました。その後、病院によってボーナスに差をつけ、土曜診療を強行するなどした結果、退職者が急増し、退職金の支払いで経営がひっ迫。病院を売却するなどの挙句、2013年に解散に至りました（下グラフ）。

退職金・ボーナス・土曜診療の3点セットが要注意

く似ています。協同組合II厚生連の経営が困難な場合、地域や住民に解決策の教えを乞うのがセオリーですが、それを知らない経営者に対して、陰から「病院M&A」を仲介する業者の「悪魔のささやき」があったと思われれます。

ボーナス削減 跳ね返した意義

つまり、ボーナスは「異変」の1つの指標だと見ることが出来ます。かつて秋田でボーナス大幅削減を跳ね返した意義がいかに大きいかわかります。この先も、ボーナスの話をするときには、単なる「月数」だけでなく、「厚生連の異変」を意識した論議が求められています。

